

み言葉は

いのちの言葉

マルコ 9,50

互いに平和に過ごしなさい。

地球上のあちこちで起こる紛争によって、人類が傷ついている現代、このイエスの平和への招きは心に響きます。

私たちは、家族や職場といった普段の暮らしのなかでも、あるいは又、政治的な考え方が違う人との間でも平和を体験するように招かれているのです。

一致があるところに平和がある

本物の深い一致を望むのであれば、相手との意見の違いを恐れずに心を開いて話し合うことも必要でしょうし、また、愛を土台にした関係が損なわれないよう心を配ることも、平和を生きることとなります。なぜなら、お互いの違いよりも、もっと尊いものは「相手の存在」だからです。

私たちの真ん中におられるイエスこそ平和

どんな争いを前にしても言えるのではないのでしょうか。人と人との間、民族の間で、お互いに相手の話に耳を傾け、助け合う愛の関係をつくりだしていくことが必要なのです。たとえ、相手と心底分かり合えないにしても、相手を理解するために、自分の考えをいったん脇に置く必要があります。もしかすると、相手も私の考えや私の話をすべて理解できなくても同じようにしてくれるかもしれません。

平和に過ごすこと: 真剣な努力が必要

たとえお互いの間に違い、あるいは誤解があったとしても、相手との関係を最優先させ、相手に対していつも心を開いていたいものです。

今月のみ言葉は「平和に過ごしなさい」というイエスの命令でもあります。そのために真剣な努力がいるということでしょう。実に、平和は私たちが保つべき「愛と慈しみ」の本質的な表れだからです。

切って折る



私たちの経験



命です

キム (南アフリカ)

平和への努力

ほとくの学校では、社会階級や好きな活動によってグループにわかれていきます。ぼくはグループのリーダー格ですが、ほとくのグループは他のグループから良く思われていません。ぼくたちがお高くとまって他の人たちをバカにしているというのです。ぼくたちは気づかなかったのですが、この一年で他のグループとの対抗意識が高まり、そのことで熱中して話すことが多くなりました。グループのなかでも色々な意見があり、ある人は、こちらになげかけられている問題に立ち向かい、自分たちを守るようにしたらいいと言い、ある人は、相手がするならこちらも同じようにしたらいいとか。でも最後に話し合っただけ結論は、悪いことを相手にするエネルギーは、だれにとってもむだなエネルギーでしかないということでした。ぼくは、ひとりひとりのなかにイエスを見て愛そうと決心しました。それがどんなに難しかったとしても、相手との冷たい関係を変えるために、ぼくは、対抗しているグループのためにお菓子を買いました。それから別のグループには、彼らがしていることを支持するためのものをプレゼントしました。そしてぼくのグループでは、相手の悪口は言わないことを決め、相手の悪かったことも話題にあげないようにしました。親切な心がけ、他のグループの人と心を開いて話し合うようにしました。そうしてぼくは、全学校の学生とかかわりを築くことができました。学生代表の選出のとき、ぼくは一番多い票を獲得して選ばれました。今ぼくは、みなを愛し、一致をもたらす機会をもっと与えられたことを心から喜んでいきます

私たちも同じような経験をしたいでしょう?



centro.rpu@focolare.org